



## 講座のアピールポイント

助産学専攻科では、科学的根拠に基づいた修士レベルの助産師教育を目指しており、臨床疑問を修士論文の研究課題につなげるまでの研究科目を設けています。同時に、講座として、妊娠期から出産・産後の母子の健康状態を生化学的、生理学的な手法を用いて解明し、母子の健康を支援するための知見を蓄積し、その成果を論文や学会発表を通して発信しております。また、国内の大学だけでなく、海外の大学や研究者との共同研究を積極的に実施しており、国際的な活動もしております。

また、近年、国内では周産期医療体制の整備が進み、ハイリスク分娩、ハイリスク新生児の出生が増加しております。児が予期せぬ状態で出生することもあるため、分娩に立ち会うすべての医療者が、迅速に初期対応を行えるよう知識・技術を身につけておく必要があります。そのため、新生児蘇生法を普及させるために、講習会の実施活動をしております。

## 講座研究紹介

当専攻科では、唾液や尿などの生体指標を用いて、妊婦や褥婦の健康状態を評価する研究を行っております。現在実施している研究としては、産後の母親の唾液を用いて、授乳と母親のストレスとの関連を調べています。また、モンゴル国において、妊婦の尿を採取し、受動喫煙状況、および妊婦の受動喫煙が母児の健康に及ぼす影響についても調べています。

その他、産科混合病棟で働く助産師の職務満足度についても研究を行っており、助産師がモチベーションを向上しながら働きやすい職場環境を検討するなどの取り組みも行っております。